

なにわ大阪研究センター活動報告

2019年度

月 日	活 動 報 告
6月1日	座談会 「息子たちが語る素顔の長沖一 一父として、作家として、教育者として」
10月27日	講演会「再考 長沖一の文学世界」
11月16日	研究会「大阪人の『かわいい』～「笑い」との接点」
12月7日	共同研究会 「なにわ大阪の暮らしのおもしろさ～地域とのつながりを考える」
2月17日	研究成果報告会・公開研究会「なにわ大阪『笑い』文化を考える」

創立 130 周年記念特別研究費（なにわ大阪研究）

特別研究について


特別研究費（なにわ大阪研究）は、関西大学なにわ大阪研究センターがめざす「ネットワークとしての大阪研究の拠点づくり」を支援するために平成26年度に創設されました。研究班の公募に際しては、本センターの活動方針の中核ともいえるべき基幹研究部門を設定しています。これまでの成果として、すぐれた研究実績をもとにした情報発信が高度化され、また、各分野からの新たな取組みからもさまざまな知見が生み出されています。これらを足掛かりとして、本センターにおける地域研究と連携の活動が一層重層化されるとともに、今後の継続的な外部資金獲得の基盤が形成されることが期待されています。

基幹研究部門について


1. 本学のルーツを探る関西法律学校・泊園書院部門
2. 持続的な地域研究のハブを宣言する大阪地域研究部門
3. 上方演芸の研究部門
4. 歴史認証とCG技術、社会科学、工学の英知を結集した景観再現・デジタルアーカイブズ部門
5. 大阪の防災・減災と環境部門
6. 上記の研究部門以外で、研究者自らが提案する研究

採択課題一覧

2019年度

研究課題	大阪の災害教訓の抽出とその活用のための防災教育に関する研究
研究代表者	城下 英行 社会安全学部・准教授
研究概要	 <p>本研究は、大阪の災害経験から「必要とされる対策」を明らかにし、その充実化に取り組むことを目的とする。</p> <p>2018年に大阪を襲った2つの災害を取り上げ、ひろくそれらの災害の教訓を抽出し、教訓を踏まえて必要とされる防災対策の構築を促進するための防災教育に関する研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none">① 災害の教訓を抽出、整理する。② 巨大災害発生時に有効となる防災体制を構築するための防災教育手法及び教材を開発する。③ 防災教材・コンテンツのさらなる充実化を図る。④ 学校での実践を継承し、教育手法の高度化を目指す。 <p>(2019年度)</p> <p>大阪府下各地の企業や学校などにおいて、大阪北部地震、台風21号の教訓を集めるためのインタビュー等の調査を実施し、防災対策につなげるための防災実践を行う。また防災学習の中で、子どもたちが地域において調査を行い、子どもたちが得た教訓を防災教材の</p>

	<p>クロスロードとして整理する。さらに、ひろく全国に発信するために防災教材としての映像コンテンツの開発を行う。</p> <p>(2020年度)</p> <p>初年次に得られた成果に基づき、大阪北部地震版／台風21号版のクロスロード（映像コンテンツを含む）を用いた防災教育の実践、教育方法ならびに教材の改善を行う。</p>
研究分担者	<p>林 武文 総合情報学部・教授 奥村与志弘 社会安全学部・准教授</p>
研究期間	2019年度～2020年度（2年間）

研究課題	こちずアプリ「大阪こちずぶらり」を活用した大阪風景画アプリの開発	
研究代表者	岡 絵里子 環境都市工学部・教授	
研究概要	<p>本研究では、以下二つの取り組みを考えている。</p> <p>一つは、「大阪こちずぶらり」の大阪市街地風景アプリとしてのバージョンアップである。</p> <p>地図に落とし込む風景画情報を増やし、作成時期の異なる風景を簡単に見ることができる風景アプリの作成を行う。</p> <p>二つ目は江戸時代の風景画情報が多く残っているものの、今は景観的に評価されることが少ない淀川流域風景アプリの作成である。</p> <p>これらの風景アプリの作成を通してその場における歴史認証を深め、さらに地図をベースとした景観インベントリーの作成が目的である。</p> <p>これらを使ったまちあるき、川下りの実施さらに地域理解を深めることが可能となる。</p> <p>(2019年度)</p> <p>図書館風景画資料の追加選定を行い、デジタル化する。</p> <p>2020年に向けて、ワークショップ参加者を募集する。</p> <p>(2020年度)</p> <p>ワークショップを実施し、参加者による風景画アプリを活用した研究を進め、成果発表会を行う。</p> <p>本アプリは、作成するためのワークショップを開催し、それぞれの参加者が風景資料と地図を比較し、読み込みことにより完成する。</p> <p>作成の過程に参加することにより、それぞれの参加者が大阪の空間構造の新しい視点を獲得の可能性が考えられる。</p> <p>また、完成した風景アプリを用いることにより、時間を自由に移動しながら風景を見比べることにより、新しい大阪風景学研究が推進されるものと考えられる。</p>	
研究分担者	<p>与謝野有紀 社会学部・教授 鳴海 邦碩 関西大学・客員教授、大阪大学・名誉教授</p>	
研究期間	2019年度～2020年度（2年間）	

